

# 盛岩寺開基開山

## 在天長存和尚について

吉浜 木村正継

天正十八年(一五九〇)

豊臣秀吉は、日本統一のため小田原城の北条氏を攻撃しその際、東北の諸大名に参戦を呼びかけました。

来ないとい領地を没収するぞという事でした。

当地を治めていた葛西氏は、参戦しない内に、小田原城攻撃が終了してしまい攻撃に参加しなかった。大崎・留守・田村・石川などの東北諸大名と共に、領地を没収されてしまいました。

葛西領の浜田一族だった在天長存和尚も、その後始末に奔走する事になります。

この地域は、一時、木村吉清親子の支配下になりますが、たちまた大きな一揆が起り、その騒動の後、仙台藩伊達家の領地になります。

住山記の記述

陸前高田市の海岸山普門寺住山記は、石碑と漢文と古文書があつて若干字句に違いがあります。

古文書を中心に、石碑の解説文(陸前高田市の碑文)によつて補つていきます。

普門四代勅特賜安祥禪師在天長存和尚小友村の人その先千葉の助、平の常胤(つねたね)の後小友蛇ガ崎の城主小友肥後頭定(あきさだ)の次男也。

始め頭定子無きを以、葛西右京之助晴胤の四男信定を嗣(跡継ぎ)となし、後に師が生まれ、僧にした。

大隆和尚(普門寺三世)は、室を与えた。

この時期、諸国は、全て兵乱の時だった。特に、天正十八年に葛西

氏が没落するとき浜田城主も、その地位を保つ事は不可能だったので、一族拳(こぞ)つて南部遠野に移住した。

城主の弟、五郎信綱は、葛西一族と共に戦つて桃生濱江山で討ち死にした。

弟六郎は、師と共に岩手郡盛岡に行き南部信濃守に仕えた。

師は、お坊さんとはいへ葛西一族の近親者なのを憚つて、その跡をくらしませんでした。

このとき、普門寺は、暫く住職不在となつた。

国内の兵乱が静まつてから普門寺に帰つて住職に復帰した。

今の太守黄門政宗君が国をおさめた時、先代までに得ていた、水田など全てを

没収され、わずかに境内の土地と師の親續(親筆)筆記だけが残つた。

支流、門末はこのときに散りじりになつた。

とはいへ、十二カ所を残した。

兵乱・危険のこの時期に敗績(大敗して従来の功績を失うという意味)を再び起こしたのは、実に師の功績である。

唐似(ママ)の盛岩、今泉の龍泉、勝木田の松月、綾里の長林、本吉大島の西光これ皆、師の開闢(開山)した寺院であつてそれぞれ

の開祖である。

以下五世後記述・\*根拠になつて文書は不明ですが、住山記(古文書)の添え書きから盛岩寺の開基年月は、従来各種資料によつて区々であつたが慶長

六年(一六〇〇)八月だと思われます。

在天長存和尚の没年は元和四年(一六一八)九月二十日、場所は綾里の長林寺

と言ひ伝えられています。

インターネットホームページを開設しました

アクセスできる方は下記のURLへどうぞアクセスして下さい。

寺子屋塾  
盛岩寺ホームページ

◆ URL <http://seigan.or.jp>

世界に向けて唐丹町の紹介をしています。